

---

○議長（藤井 要君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前11時10分）

---

◇ 小 林 克 己 君

○議長（藤井 要君） 一般質問を続けます。

通告順位2番、小林克己君。

（3番 小林克己君 登壇）

○3番（小林克己君） 壇上より質問いたします。3つほど一般質問させていただきます。

1つ目山口雲見線について、山口雲見線の工事において、土器などが出土しました。これによる工事の遅れはあるのでしょうか。

2つ目出土した、この土器はどのように扱われるのか。観光などに活かされるのか、質問します。また、見学体験をふるさと納税の返礼品とかにする考えがあるのか伺います。

大きな2つ目、公共交通について伺います。1つ自主運行バスは、地域や利用者のニーズに則した運行方法を考えるべきと思うが、当町の考えはどのような考えなのか。

2つ、買い物等支援タクシーは、現在、曜日により利用がなされていると思われませんが、例えば6のつく日利用などの運行変更などの考えは町にあるのかを伺います。

おおきな3つ目、健やか安心して暮らせる福祉のまちづくりについて伺います。

1つ成人保健の充実について伺います。

1つ、今年度の特定健康受診率は、また、町はどのような啓発、受診しやすい体制を整備していますか伺います。また、どのような糖尿病重症化予防への取り組みがなされているかをお伺いします。最後に緊急医療体制の充実について、西伊豆消防管轄の全ての救急車が稼働のため、救急車を呼んでも到達するまでに時間がかかると言われた例があると聞きます。そこで、民間救急を経営して頂ける企業があらわれるような支援策を考えてはどうかと思います。町の考えを伺います。

以上、壇上よりの質問を終わります。

（町長 長嶋精一君 登壇）

○町長（長嶋精一君） 小林議員の質問でございます。大きな1つ、山口雲見線について、その内の1、山口雲見線の工事において、土器が出土した。これによって、工事の遅れは

あるのか。2つ目、出土した土器はどのように、扱われるのか。3つ目は、現地見学体験をふるさと納税の返礼品にする考えはあるのかと、ということでございます。お答えします。現在、山口地区では宇治橋架替工事が行われていますが、それに合わせて新設される町道用地内にある、山口遺跡で埋蔵文化財の発掘調査も行われております。この工事は、過疎地域自立促進特別措置法に基づいて県が代行しているもので、遺跡内の発掘調査も県下田土木事務所の依頼により、令和3年度までの予定で県埋蔵文化財センターが行っております。現時点で、遺跡内から当初の想定をはるかに上回る大量の土器が出土したため、調査の当初計画を変更せざるを得ない状況であります。山口雲見線改良事業に影響が出ないように、県と十分に協議を行ってまいります。また、遺跡内から出土した土器については、静岡市にある県埋蔵文化財センターで資料整理作業を行った後、報告書にまとめられて公開されますが、出土した土器の扱いについては、土地所有者である町と県埋蔵文化財センターとで協議することになります。

なお、遺跡内での現地見学体験をふるさと納税の返礼品とする考えについてですが、まずは開催の有無について県埋蔵文化財センターと協議し、その上で開催が可能であれば返礼品にできるかを検討してまいりたいと考えております。

大きな2つ目でございます。公共交通について、その内の1つ、自主運行バスは、地域や利用者のニーズに即した運行方法を考えるべきだと思うがどうか。という質問でございます。お答えします。議員のご意見のとおり、地域や利用者の行動をデータ化し、そのニーズに即した最適な運行方法を検討することは、非常に重要なことで、町では、今年度タブレットを活用し、バスの実際の運行状況や乗降の実人数を調査しております。今後、これらの結果を踏まえ、前例にとらわれることなく、社会の変化に合わせた新しい視点での公共交通のあり方を、関係事業所等と連携協力し、検討してまいります。公共交通の2つ目であります。買物等支援等のタクシーは、現在、曜日が決まっておるが、例えば6のつく日に利用などの運行変更の考えはあるかという質問でございます。お答えします。買物等支援事業は、平成30年度より実証実験として行われており、事業の目的としては、公共交通機関がない、あるいは他者の協力がないと外出できない方に、既存のタクシー運行を活用し、買い物や病院等の日常生活の利便性の向上と外出時における経済的、精神的負担の軽減を図るものとなっております。実証実験は3年間で、令和2年度をもって終了となりますが、利用件数も平成30年度は延べ1,327件でしたが、令和元年度は、2,394

件と大幅に伸び、令和2年度も1月末現在1,878件と新型コロナウイルス感染症の影響により若干減少しているものの、利用者にも好評を得ております。このため、令和3年度からは、町内のタクシー業者3社に協力をいただきながら、通常のタクシー事業の中で継続して実施していく予定であります。今までの1社から3社に増えることにより、利用者の利便性は上がると考えられますが、財政的な面から増額が予想されるため、今までの運行条件を継続して実施し、今後の状況を確認し、検討してまいりたいと考えております。

次、大きな3つ、健やか安心して暮らせる福祉のまちづくりについての1でございます。成人保健の充実について、今年度の特定健診の受診率はどうか、また町はどのような啓発、受診しやすい体制整備をしているのかという質問でございます。お答えします。今年度の特定健診の受診率は、1月末現在で30.3%となっており、昨年度と比較して、約10ポイントの減少となりました。減少の理由としては、新型コロナウイルス感染症の影響により、賀茂医師会に委託している集団健診の日数が減少したこと、また、完全予約制に変更したことにより、1日で受診できる人数が限られてしまったことによるものと考えております。このため、特定健診の受診機会を確保するため、2つの医療機関と町が独自に契約し、個別健診を実施いたしました。また、人間ドックの助成や医療機関からのデータ提供により、受診率の向上を図りました。受診啓発については、未受診者への勧奨通知や電話連絡、保健委員の協力を得て受診を呼びかける活動など実施しております。また、賀茂圏域でも「受診率5%アップ大作戦」を掲げ、庁用車に啓発マグネットを貼付したり、のぼり旗の設置などを行っていますが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、勧奨通知以外は実施ができませんでした。令和3年度も新型コロナウイルスワクチン接種の実施により、特定健診の賀茂医師会に委託する集団健診の日程調整が難しくなりますが、人間ドックや医師からのデータ提供、個別健診などによる受診機会の確保により受診率の向上を図ってまいります。続きまして、成人保健の充実についての1つ目、どのような糖尿病等重症化予防の取り組みを行っているのかということでございます。平成30年2月19日に賀茂地域健康寿命延伸等協議会を設置し、賀茂地域における住民の健康寿命の延伸と生活の質の向上を図るため、1市5町、3師会・・・、3師会というのは医師会、歯科医師会、薬剤師会でございます。これと静岡県が一体となって健康寿命延伸のため様々な取り組みを行っております。その取組みの一つとして「糖尿病等重症化予防対策の推進と指導力の向上」を目的に市町において共同実施チームを設置し、高リスク者へ医

療と生活習慣の改善が継続できるよう支援しております。今年度は、医師、歯科医師、薬剤師など多職種が連携して腎機能の低下を防ぐために、腎機能情報を示すCKDシール、これは腎シールであります。これを作成し、お薬手帳に添付する取組みやポスターの掲示、チラシの配布などの広報活動を行いました。また、市町の担当者においても、重症化や人工透析の新規患者の抑制が図られるよう、保健指導の優良事例の研修や情報の共有化を図り、保健指導の技術向上に努めております。その他にも高血圧対策や健康に配慮した減塩レシピなどの情報発信を行っております。

小林議員の3つ目でございます。健やか安心して暮らせる福祉のまちづくりについての2つ目、救急医療体制についてであります。西伊豆消防署管轄の全ての救急車が稼働のために救急車を呼んでも、到達するまでに時間がかかると言われている。そこで、民間救急が現れるような支援策が考えられているかということでございますが、お答えします。西伊豆消防署では、救急車が出払っている時に救急の電話を受けた場合は、患者の状況により、すぐに確認が必要な場合は、救急車以外の指令車などで出動することや、電話での受け答えにより緊急を要しないと判断した場合は、下田消防本部へ応援を要請し対応しているとのことです。現在、松崎町には介護タクシーを運営している事業者もあり、乗り降りの際に手助けをしたり、病院への付き添いをお願いできる場合もありますので、手軽に利用できる介護タクシーの利用を検討していただければと思います。民間救急車は、救急走行はできませんが、医療機器が搭載されており医療措置ができるとのことであります。民間救急車に現状どこまでニーズがあるか分かりませんが、今のところ、西伊豆消防署からの要請もありませんので、企業を誘致するまでの考えはございません。以上で、小林議員の質問に回答いたしました。

○3番（小林克己君） 一問一答でお願いします。

○議長（藤井 要君） はい。

○3番（小林克己君） 山口雲見線について質問させていただきます。出土したこの土器は静岡市の資料の整理の後に、町と県で協議をされた後に対応するって形なんですけれども、その対応された後に、町営の観光施設とか何かにそういう展示とか、なにかして松崎の町を観光としてアピールしていくような、先の話ですけれども、そのような対応と考えるのでしょうか。

○産業建設課長（新田徳彦君） ただいま、出土した土器の関係でご質問がございました。

埋蔵文化財、教育委員会の関係ですけれど町道山口雲見線の改良事業につきましては所管している産業建設課でございますので、私の方からお答えをさせていただきます。今、出動した土器の扱いにつきましてはですね、静岡市にあります、静岡県埋蔵文化財センターこちらに運ばれまして、綺麗にして、その後、整理してですね、記録に残してそれを報告書にまとめるという作業に入ってきます。いつ頃できるかっていうのは、今のところまだ未定でございますけれども、出土した土器、これについてはですね、今現場では、あの当初30箱位予定していたんですが、当初の予定の3倍以上・・・、100個以上ですね、土器が発掘されると、これらの土器についての扱いについては・・・、所有物は町にもあるんですけども、ただはたして、その出土された土器が適切に管理されるかどうかということも考えなければなりません。また、1つの土器だけを下さいねというわけにはいきませんもんですから、その辺の土器の扱いにつきましては、今後の県の方とですね協議をしていくというような形になります。ですから、それによって方向性が決まってくるので、それ如何によってですね、観光資源として扱えるかどうかという町として判断してまいりたいなと考えてるところでございます。

○3番（小林克己君） 方向性を見据えた上で検討するってことでよろしいですね、分かりました。

先ほど、高柳議員の方からも、ふるさと納税の関係で少し話がありましたけれども、今までは、電子申告といえばパソコンだけでした・・・。今年からは給料明細書やマイナンバーカード、スマホがあればスマホでの電子申告ができるように始まりましたね。それで、20代や30代の会社任せにしていた若い子のサラリーマンがスマホで電子申告をする際にふるさと納税をすることが増えてくるのではないかと自分は予想しております。先ほど課長の方からマーケットの調査とかっていうワードも出てきましたけども、それを含めてこの今回出土した土器とか何かも観光とか何かに色々・・・、体験みたいな形で返礼品とかふるさと納税とかっていう形で考えていってもらえばとかと思うんですけども、マーケットの調査という形でそのような、子育ての世帯をターゲットにするような考えはありますでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 申告の関係はですね。基本的には若い世代、子育て世帯、一番多いのは、多分、今までどおり会社で源泉されるっていうパターンが多いと思います。今回、申告が必要な方についての電子化っていうのが進んでいるという状況になります。

すので、パーセンテージ的には、その辺はちょっと少ない部分になってくると思います。ふるさと納税で返礼品に体験をということによるしいかと思しますので、体験についてなんですが、今、産業建設課長の方でも答弁頂いた通りですね、県の埋蔵文化財センターとの協議が進まないと、なかなかその部分も進められないところがございますので、そちらがはっきりした上で、どういった体験・活用ができるかを把握していかなければならないので、今の時点では考えることはちょっと出来ませんのでご了承いただきたいと思っております。

○産業建設課長（新田徳彦君） 発掘された土器についてはですね、先ほども申しましたけれども報告書にまとめられる予定でいます。県の関係者とも話した中では、県の方といたしましても、例えば、現場見学会みたいな形ですとか、町民の皆さんも含めてですね、幅広く調査の成果っていうのは、発表していきたいなというようなことも考えてるということだものですから、その辺は、今後ですね、県の方と協議しながらやってもらいたいと思っております。

○3番（小林克己君） ありがとうございます。県と協議して松崎の観光を・・・、松崎の財産っていうものをアピールする機会が、この先あるっていうことを理解しましてこの山口雲見線の質問は終わらせていただきます。

次の公共交通について質問させていただきます。コロナ禍で運営が例えば、自主運行バスも多分厳しいと思われま。例えばそこで65歳以上の高齢者の希望者にバスの乗車券の半額ぐらいを補助するような乗車券を支給して乗車率を上げるとともに、またこの買い物支援をワイドにするっていうことの・・・、私がいうこのワイドというのは、たとえば、行きはバスで行って、帰りはタクシーで買い物、これによって利用者の使用する金額もしかすると下がるのではないかって思っております。また、バスを例えばこの支援することによって、今まで曜日に限られていた買い物支援が、曜日に捉われず、えーと買い物支援ができるのではないかと自分は思っていますけれども、これはだから両方成立してやるようなことはできるのでしょうか。

○健康福祉課長（糸川成人君） バスの利活用につきましては、65歳以上ではないですけども、75歳以上の方がですね、バスの券を買いまして、利用することが可能と今現在なっております。ただバスの券というのがですね、1,300円分の券をですね500円で購入ができるということの券で、こちらの方も何回でも購入できるようなものになってますの

で、今後このこういうものを活用してですね、バスを利用していただければなど考えています。

○3番（小林克己君） これは75歳以上ってことで、年齢を下げることは多分考えてないでしょうかねってことでよろしいですか・・・、わかりました。この計画もまたよろしくお願ひしたいと思っております。

そして、この自主運行バスですけれども、今回、減便されるところがあつたりとかして、減便される路線において、その地域から支障を感じるような意見とか何かはあつたのでしょうか、なかつたのでしょうか。あつたのであれば、どのような支障の意見があつたのか。お聞かせ願えればと思っております。

○企画観光課長（深澤準弥君） 減便についての説明は、地区の方にも、ちょっと説明させて頂いております。支障という部分で考えた時に、本数が減るってということで、今、乗降調査、データを収集している段階でございますので、できるだけ支障の少ないようにということでは進めております。ただ、全体的な運行を考えた時に、1人が一週間に・・・、誰がどのバスに乗るってのはもうはっきりしてきておりますので、その方のためにバスを往復運行するといったようなことだとやっぱり、町しても考えなければいけない部分でございます。そういうところに、先ほどおっしゃったように、買い物支援タクシーであったり・・・、そういったものを活用していただくようなことを考えるということで、今回、地域の公共交通につきましては、まずはデータ・・・、ニーズをしっかりと把握した上で、新しい形もしくは、今までにないような公共交通のあり方を県も含め、業者も含め、今検討してる段階でございます。これは引き続き、新年度においても継続してやっていく予定でございます。

○3番（小林克己君） 今、新たな交通っていうような、ワードに・・・、例えば、Izuko（いずこ）のような、オンデマンド交通のような、システムが今まで集めた・・・データしたこの資料が、そういうような形で活かされていくような感じを想像してよろしいのでしょうか。それとも、ちょっと違う方向なのではないかと説明願えればと思います。

○企画観光課長（深澤準弥君） Izuko（いずこ）につきましては、Maas（マース）ですね、観光型 Maas（マース）ということで、観光型のオンデマンド等、いろんな各種バスタクシーそして電車、今回はフェリーも入っております。それをアプリで最初やったんですけども、そのアプリも使い勝手が悪いということで、今回、ウェブ上での Izuko（いずこ）

の利活用っていう形に移ってきておまして、そこでの活用ってことはなっておりますけれども、そちらについては、観光型のMaas（マース）ということで、伊豆半島は今県を中心にやっているところでございます。今の私の方でやってるのは、いわゆる日常生活の足として、公共交通ということで自主運行バスの方も精査しているところでございますので、そちらを確認しつつやるような形になります。Izuko（いずこ）も基本的にはスマホを活用することによりますので、ある一部、下田地区では、ケーブルネットワーク等を使って自宅からでも、というような実験もしてございますが、原則はスマホによるものになるものですから、スマホの普及率等そういった関係も含めて全体的な中でバランスをとって、検討していく必要があると考えてございます。

○3番（小林克己君） これから検討していくってことでよろしくお願ひしたいと思っております。よろしくお願ひします。それでは、公共交通については終わらせていただきます。

今度、3番目の健やか安心に暮らせる福祉のまちづくりについて、少し質問させていただきます。特定健診の受診率は前回と比べて10ポイントぐらい下がってるって話でしたけれども、目標としては多分50%ぐらいが、多分目標の数であったのではないかと自分は思っております。これがコロナの影響・・・、または、もしくは、予約の取り方の影響でこれが下がったという認識で、まずはよろしいのでしょうか。他に考えられるような要因はないのでしょうかということと、また、この1人当たりの松崎町の医療費の額はどのぐらいなのか、または、県下ではどのぐらいの順位に位置づけられ、一人当たりの医療費がかかっているのかということを質問させていただきたいと思ひます。

○健康福祉課長（糸川成人君） 特定健診の受診率の関係ですけれども、やはりですね、コロナの影響によりということ、以前は・・・、コロナの前についてはですね、特定健診の行う日に行けばですね、多少混むというところもありましたけれども、受診ができたということになるわけですが、今回につきましては、会場の密を避けるためにですね、完全に予約制にさせて頂いて、人数の制限をさせていただいたと・・・。で、なおかつそのコロナの関係で、最初の頃、賀茂医師会は集団接種の日程が取れなかったものですから、確か、7月頃からだったかと思ひますけれども、開始をしてということで、賀茂圏域で賀茂医師会の方に委託をしてるものですから、それぞれの市町の実施日数が減ったということが主な要因かなと思ひます。ただ、それによりまして、その集団検診の受信者の人数

につきましては、減ったわけですが、その代わりと言ってはなんですけれども、個別接種個別検診ということですね、2つの医療機関の方に個別にお願いをしましてですね、集団検診が終わった後、また受診できなかった方につきましては、今回ですけれども、2医療機関です58名の方に受信をしていただきました。後、人間ドックなんかも、国保で助成をしてるわけですが、その女性のデータをもらってですね、その特定健診の方に登録をして、受診したものと同一のものとしてデータを扱うというような方法もっておりますので、そちらの方につきましても、今現在です58名の方が登録の方をされていますので、そういう分ですね、受診率の向上に向けてということで、町としての努力はしているというところでございます。もう1点、町の医療費が県の中で、高いのかというところがございますけれども・・・。申し訳ございません、細かいデータ、金額等、今現在持っておりませんが、賀茂といいますか、この伊豆地域全体の傾向としてですね、高血圧症の患者さんが多いということでありまして、それに伴う・・・当然、そういう治療を受けなければならないということで、医療費の方は高くなってるのかな、つという感じはしております。

○3番（小林克己君） 個別の人数が58人と人間ドックの61名・・・、これを加味すれば、特定健診の受診率が今回10ポイント下がっていたことはありますけれども、前年とそんなに変わりがないのかなって、把握してよろしいですか。全体見たけれど・・・。

○健康福祉課長（糸川成人君） すいません、説明の方が、上手くなくて申し訳ございません。今言った個別検診であったり、人間ドックのデータをもらった活用をして、それも特定健診のデータとして扱って30.1%ということでございます。先ほど町長が、報告したのは、1月末現在でございます、2月末現在ですね、もう少し増えまして、31%ということで、先ほど私の方がお話をさせていただいた数字については、受診率が31%になったということでございます。

○3番（小林克己君） ありがとうございます。救急車の方の関係で質問させていただきます。先月、2月26日でしたっけか、えっと・・・下田地区消防組合の議会に参加してきました。そこでもやはり、救急車がフル稼働という話を聞きました。その日は1台は車両点検で、1台は長岡の方に行っていて、その日も支障はなく毎日が過ぎたようでした。その議会の中で複数の、町の議員より、広域の合併の話が進んでいないっていう、このコロナ禍の中で議会が会議が中止であったり、渡辺参与が広域合併への会議の参与という立場になっ

たので、参加できていないのが支障になっているのではないかなどという話その時に上がりました。実際に、今回のこの救急車とかっていう問題も駿東伊豆消防組合とのこの消防広域の合併が・・・、統合がスムーズに進むような話し合いとかなにかができて、これが、合併とかなにかクリアできれば、いろんなこの問題が解決され、安心して暮らせる福祉のまちづくりの・・・、福祉の町になっていくのではないかと思います、当町の考えをちょっとお伺いしたいと思います。

○総務課長（高橋良延君） ただいま、下田消防組合と駿東伊豆消防組合の統合ということで実際にここの話というのは、数年前からございまして、県の再編計画に載っているところでございます。ただ、この広域化協議会につきましては、なかなか進展が・・・思うように進んでいないというのが、現状でございます。なぜ、進んでいないかということについては、1つはこういったコロナの影響というのも、1つの要因でございました。後、色々細かい詰めという中で、非常に課題が多いということで、今その課題整理も行っているところでございまして、オリンピック以降協議を進めていくとようなことで、内々、話し合いが行われているとこれで、ございます。ですから、実際に進むとしては、来年以降というようなことになろうかなと思いますけれども、これもまだ流動的なところでございしますので、そこはご承知ください。おっしゃるとおり消防力の強化という面では、駿東交えて、そこで大きな組織として・・・、ということも考えられますので、そのところは、今後の協議、これを着実に進めていくというようことになろうかなと思います。回答は以上でございます。

○3番（小林克己君） 広域的な消防の進めていっていただけるって・・・、オリンピックの後ってということでしょうかね、令和6年4月1日を統合の目標にされているっていう事だったもので、ちょっと会議の数が・・・、今も課題がたくさんあるという話だったので、まあ早急にでも、早めにでも、たくさん話の会議が持てるような状況を作っていただけるように、町の方からもお願いしたい・・・、言って頂きたいと思っております。ちょっと早いですが、自分の質問はこれにて終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（藤井 要君） 以上で小林克己君の一般質問を終わります。

午後1時まで休憩といたします。

（午前11時51分）

